

仕事も家庭も自分らしく



世界経済フォーラムによる「ジェンダー・ギャップ指数2023」において、日本の順位は146か国中何位でしょう？

(※ジェンダー・ギャップ…男女の違いにより生じる様々な格差。

ジェンダー・ギャップ指数の計算方法は基本的に「女性÷男性」で、順位が高いほど男女共同参画が進んでいることとなります。)

- ア. 15位 イ. 79位 ウ. 125位

男女の役割分担を考えてみませんか？

右下のグラフは、「女性に関することで、人権上、特に問題があると思うこと」という問いに対する回答です。「昇給・昇進の格差など職場での男女の待遇の違い」が4割近くを占め最も高く、次いで「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」、「男女の固定的な役割分担意識（男は仕事、女は家庭など）」となっています。

仕事

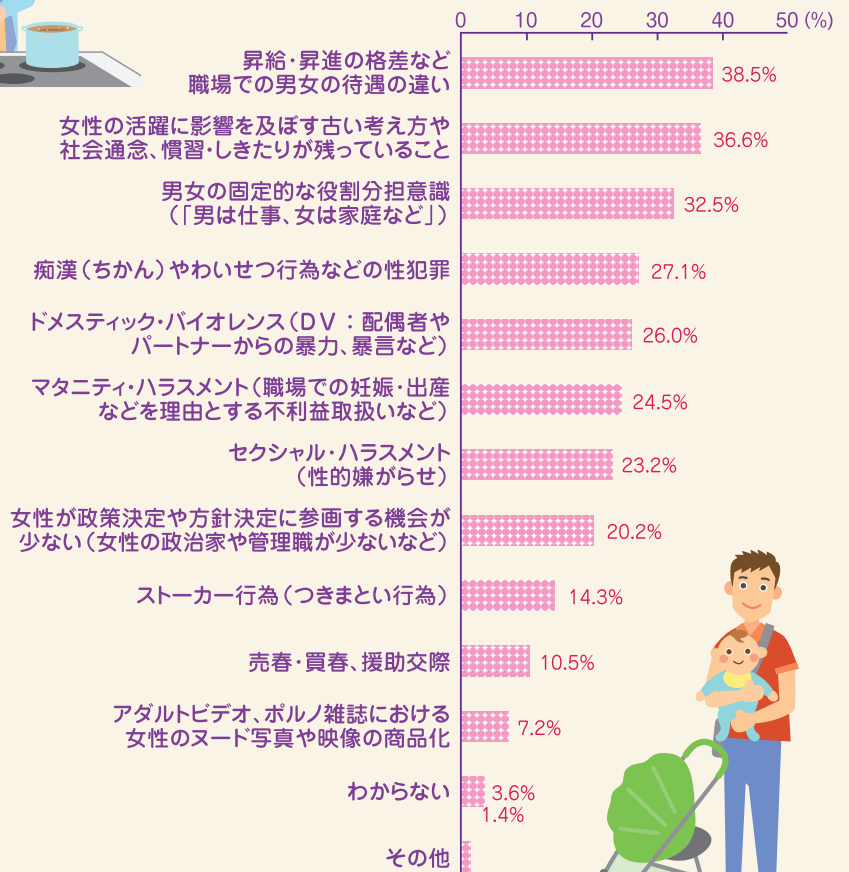


家事



女性の人権で問題があると思うこと

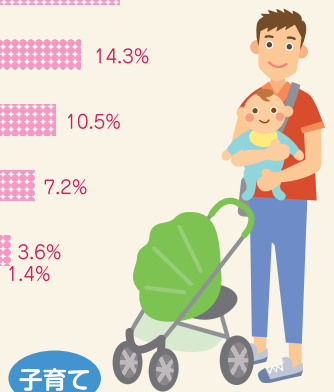
明石市「人権・男女共同参画に関する市民意識調査（2020年3月）」より



「ジェンダー」とは、社会的・文化的につくられた性別のことです。しかし、今の社会では、固定的性別役割分担の考え方が残っており、個人の希望や能力ではなく「男だから」「女だから」という無意識の偏見によって生き方や働き方の選択肢や機会が決められてしまうことがあります。

そこで、一人ひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆる物事を一緒に決めることができる「ジェンダー平等」の実現が必要です。

性別の固定観念にとらわれることなく、女性も男性も個性と能力を十分に発揮し、輝ける社会をつくっていきましょう。



子育て